

間口除雪は費用、時間で困難

意見交換で佐久間誠委員(市民連合・凧風会)は「交差点も含めた通学路除排雪の徹底も重要」などと新たな

【名寄】名寄市議会経済建設常任委員会(奥村英俊委員長)が、23日午後1時半から市役所名寄庁舎で開かれ、市内の除排雪体制の改善に向けて意見を出し合った。同委員会は、「除排雪」をテーマに道内を視察。これを基に、市の排雪員営団の復活による体制強化、町内会との意見交換の開催、間口除雪、見通しを確保した交差点排雪の実施などの項目を盛り込んだたたき合案を作成した。

同委員会は、「除排雪」をテーマに道内を視察。これを基に、市の排雪員営団の復活による体制強化、町内会との意見交換の開催、間口除雪、見通しを確保した交差点排雪の実施などの項目を盛り込んだたたき合案を作成した。

同委員会は、「除排雪」をテーマに道内を視察。これを基に、市の排雪員営団の復活による体制強化、町内会との意見交換の開催、間口除雪、見通しを確保した交差点排雪の実施などの項目を盛り込んだたたき合案を作成した。

名寄市議会
経済建設委

送水管の整備が完了

風連地区給水統合は31年から

追加項目を提案。たたき合案の内容に対して市側は、通学路除排雪で「市内の通学路交差点は約300カ所。除排雪重機1セットを専用として実施した場合、1日10カ所の実施が可能としても約1カ月かかる」。間口除雪で「市内全域をタイヤショベルで実施した場合、名寄地区で約3億円、風連地区で約5000万円の予算が必要。加えて、1カ所の作業時間を約5分に想定して市内1万カ所以上を実施すると業者への負担が大きい」。

さらに、小型ロータリーによる間口除雪の可能性で「除排雪にか

かる費用は1億円を下回るが、ロータリー車の台数確保が必要で、名寄地区で10台以上、風連地区でも5台程度いる。また、小型ロータリー車は走行能力が低いため、時間がかかる」と難しい考えを示した。

これを受けて同委員会側は、「早期に実施可能なもの」や「費用がかかるもの」などにジャンル分けして内容をまとめ、次回委員会で協議することを確認した。

この他に市側が、平成28年度の上下水道事業やバスリース事業の利用状況などを報告。

水道事業では、風連

地区の地下水を廃止した名寄地区への給水統合の見通しで「名寄から風連への送水管整備は完了しているが、水漏れアストや洗管作業などを29、30年に実施するため、31年から統合する」。

21日現在の今シーズンのスキート場利用人員では、昨シーズン(27年度)に比べて5136人増の6万1497人とし、「10月下旬からの降雪、積雪に伴い例年よりも大幅に早い12月4日にオープンしたことが主な増加要因。また、12月の利用だけを見ると、前年度対比8143人増の1万2098人」と説明した。(秋元)